



コレ、ヨモ!

～あなたの扉を開ける72冊～

子どもの成長段階に応じた推奨図書

中学生・高校生編



コレ、ヨモ!

～あなたの扉を開ける72冊～

子どもの成長段階に応じた推奨図書 中学生・高校生編

令和2(2020)年12月発行

編集発行／福井県教育庁生涯学習・文化財課

〒910-8580 福井市大手3丁目17-1 TEL 0776-20-0559

<https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/syoubun/dokusyo/suishoutosho.html>

はじめに

福井県では、中学生や高校生の皆さんに本に親しんでもらうために、図書館や学校、書店などで働くいろんな人を選んでもらい、皆さんにお薦めする本を載せた冊子を作りました。

この冊子の中から、お気に入りの一冊を見つけてくれたら嬉しいです。

もくじ

中学生～

フィクション・・・・・・・・・・2

ノンフィクション・・・・・・・・5

高校生～

フィクション・・・・・・・・・・8

ノンフィクション・・・・・・・・11

この冊子について

- 対象はあくまで目安です。自分の対象でないところの本も楽しんでみてください。
- 本は、それぞれの対象や分野の中で、本のタイトルの五十音順に並んでいます。
- 🎵がついている本には、シリーズの本があります。
- この冊子に掲載している本の紹介文は、図書館や学校などでの子どもの読書活動に、自由にご活用いただけます。
- 「子どもの成長段階に応じた推奨図書」は、福井県ホームページに載っています。この冊子に載っている本を読んでみて、感想や意見などを教えてください。



子どもの成長段階に応じた推奨図書

1

穴

ルイス・サッカー／作
幸田敦子／訳
講談社



イエルナッツ家の人々は、先祖が受けた呪いのせいでも代々不運続き。4代目のスタンリーも、無実の罪で砂漠の少年院に送られ、意地悪な女所長から、人格形成が目的だという穴掘りを命じられる。ところがある日、穴から金色の筒を見つけたことで、穴掘りには別の目的があることを知る。

2

うそつきの天才

ウルフ・スタルク／著
菱木晃子／訳
はたこうしろう／絵
小峰書店



ウルフ少年は、「もう、うそはつかない」と誓いながら、こりずに友達の前でうそをつく。親についたうそがもとで家出をすることになる「うそつきの天才」。作文の時間に、クラス作文の上手なヨランと、作文の出来栄を競い合う「シェークvs. バナナ・スプリット」の2作品を収録。

3

運命の騎士

ローズマリ・サトクリフ／作
猪熊葉子／訳
岩波書店



孤児で、犬飼いの少年ランダルは、無慈悲な城主の怒りをかい、誠実な騎士エベラードに引き取られる。騎士の孫のベービスと心を通わせ、彼の小姓となるべく騎士の教育を受ける。かけがえのない友と故郷を手にしたランダルだが…。11世紀イギリスを舞台にした歴史小説。

4

王への手紙 上・下

トンケ・ドラフト／作
西村由美／訳
岩波書店



16歳の見習い騎士ティウリは、騎士叙任式の前日、沈黙の一夜を過ごす礼拝堂で、助けを求めてやってきた男にドアを開ける。ティウリは、男から隣国の国王にあてた手紙を託された。思いがけず重要な使命を帯びたティウリを、次々と困難が襲う。続編に『白い盾の少年騎士』がある。

5

影との戦い (ゲド戦記1)

アーシュラ・K.ル＝グウィン／作
清水真砂子／訳
岩波書店



竜や魔法使いが存在する世界アースシー。並外れた魔法の才能を持つ少年ゲドは、権威ある魔法学院に入り、たちまち頭角を現す。だが、自分の力を見せつけようと使った魔法で、正体不明の恐ろしい「影」を呼び出してしまった。大魔法使いゲドの生涯を描くファンタジーの第1作。

6

孔雀のバイ

ウォルター・デ・ラ・メア／詩
エドワード・アーディゾーニ／絵
間崎ルリ子／訳
瑞雲舎



イギリスの詩人ウォルター・デ・ラ・メアによる子どものための詩集。ひとつひとつの丁寧に選ばれた言葉たちが形づくる、美しく不思議で、時に少しこわい詩の世界を味わえる。エドワード・アーディゾーニの挿絵も繊細で美しい。82編を収録。

7

クラブアート

オトフリート・プロイスラー／作
中村浩三／訳
偕成社



クラブアートは、奇妙な夢に導かれ、水車場の見習い職人になる。親方は、金曜の夜になると、職人たちをカラスの姿にかえて魔法を教えた。やがてこの水車場の暗い秘密を知ったクラブアートは、親方との対決を決意する。『大どろぼうホツェンブルッツ』の著者が古い伝説をもとに書いた物語。

8

獣の奏者
I 閼蛇編

上橋菜穂子／著
講談社



物語の舞台は、「リョザ神王国」。主人公のエリンは、戦闘用の閼蛇を飼育する村で、その医師である母と二人で暮らしていた。ところが閼蛇の大量死が起き、母は罪を問われ、閼蛇によって処刑されることになる。その時、母は、指笛で閼蛇を操り、エリンだけを逃がす。

13

DIVE!!
上・下

森絵都／著
KADOKAWA



高さ10mの台から時速60kmでダイブ。わずかに1.4秒の空中演技。坂井知季は、飛込競技を5年続けている中学生。通っているミズキダイビングクラブ(MDC)が潰れそうになったとき、新しいコーチの麻木夏陽子と出会い、才能を開花させていく。彼らはMDCを守ることができるのか。

14

宝島

ステイブンスン／作
坂井晴彦／訳
寺島龍一／画
福音館書店



海沿いの宿屋ベンボー提督亭で老水夫が急死し、一枚の地図が残された。宿屋の息子ジムは地図の示す宝島を探すために、医者のリブジー先生たちと船出する。ところがある日、ジムは、船乗りとして雇われたジョン・シルバーが、宝を略奪しようとして計画しているのを耳にする。ジムたちは宝島にたどり着くことができるのか。

9

九つの銅貨

W・デ・ラ・メア／作
脇明子／訳
清水義博／画
福音館書店



イギリスの詩人である著者の神秘的な雰囲気を持った短編集。おばあさんと二人暮らしの貧しい女の子がお金も食べ物もなくなった時、小人が現れる。小人は9日間毎日1ペニー銅貨を1枚くれたら、仕事を全部引き受けてあげると言う。女の子はその約束を果たし、小人に助けられる表題作の「九つの銅貨」など全5話。

10

算法少女

遠藤寛子／著
筑摩書房



江戸時代、町医者娘あきは、父から算法の手ほどきを受けていた。ある日、観音様に奉納された算額の絵馬に誤りを見つけ、思わず声に出す。それを聞かれたことから、絵馬を奉納した武士の子どもを算法で負かすことに。噂を聞きつけた藩主から、姫君の指南役の話を持ちかけられるが。

15

種をまく人

ポール・フライシュマン／著
片岡しのぶ／訳
あすなろ書房



貧しい人たちが住むある町に、生ゴミや古タイヤなどありとあらゆるゴミが捨てられた空き地があった。ベトナム人の少女キムは、そこに小さなマメの種をまく。このことに気付いた年齢も人種も境遇も異なるこの町の人たちが種をまき、畑を作り始める。やがて空き地は、少しずつ変わっていくが、変わったのは空き地だけではなかった。

16

魂をはこぶ船
幽霊の13の話

オトフリート・プロイスラー／作
佐々木田鶴子／訳
スズキコージ／絵
小峰書店



ドイツの作家プロイスラーが、ドイツやその周辺地域の昔話から選び、語りなおして集めた作品集。踊る幽霊にかこまれながらバイオリンを弾き続ける楽師の話、小間物問屋が幽霊を退治する話など、魂や幽霊の話を13話収録。シリーズには『真夜中の鐘が鳴るとき』など2冊。

11

シャーロック・ホームズ
まだらのひも

コナン・ドイル／作
林克己／訳
岩波書店



継父に怯えながら暮らす姉妹の姉が結婚の直前、奇妙な遺言を残して死んでしまう『まだらのひも』など、最も有名な探偵の一人シャーロック・ホームズが活躍する短編6編を収録。ホームズは、豊富な知識と観察眼で推理し、思いもよらない手掛かり同士を結びつけ事件を解決していく。

12

そして、
バトンは渡された

瀬尾まいこ／著
文藝春秋



森宮優子は17歳。血のつながらない親の間をリレーされ、4回も苗字が変わった。父親が3人、母親が2人。けれどもそれを不幸だと感じさせない家族の形があった。血がつながっていても、いなくても、お互いを大切に思い信頼しあう暮らしがあった。

17

飛ぶ教室

エーリヒ・ケストナー／作
池田香代子／訳
岩波書店



ドイツの男子高等中学では、クリスマスに演じる劇「飛ぶ教室」の稽古が進んでいた。そこへ、仲間が実業学校の生徒に捕まると知らせが入る。仲間を救出し、無事に劇の上演ができるのか。作者の経験をもとに、尊敬する先生の姿を織り込みながら、性格も境遇も異なる少年たちの日常と友情を描いた物語。

18

西の魔女が死んだ

梨木香歩／著
新潮社



まいは、中学に入学して間もなく学校に行けなくなり、田舎に住む祖母の家で暮らすことになった。魔女の血筋だという祖母は、まいに魔女修行をさせる。その修業は、規則正しい生活と、自分の意志を持つこと。やがてまいは、自分を取り戻していく。

19

ブリット-マリは
ただいま幸せアストリッド・リンドグレン／作
石井登志子／訳
徳間書店

スウェーデンの小さな町に住む女の子ブリット-マリ・ハーグストレムが、ペンフレンドのカイサに21通の手紙を書く。季節ごとの町の景色、ハーグストレム家の出来事、友だち、恋など、「この今」を夢中で生きている15歳の女の子の手紙で綴られる物語。

20

めざめれば魔女

マーガレット・マーヒー／作
清水真砂子／訳
岩波書店

14歳の少女ローラは、呪いにより突然病気で倒れた弟を救うため、年上の少年ソーリーに助けを求める。彼と彼の家族は魔女で、弟を救うためにはローラ自身も魔女になる必要があると言われる。弟の病状が進む中、ローラは、母の新しい恋人の存在や、自分のソーリーへの気持ちに揺れ動く。

25

ゴリラは語る

山極寿一／著
講談社

恋と友情は両立できないのか。こんな疑問に、ゴリラはヒントを与えてくれる。人間がどういう生き物なのかを知りたいときに、よき鏡となってくれるのが、同じ祖先をもつゴリラたち。アフリカのゴリラ家にホームステイした著者が、ゴリラについて、人間について、自然について語る。

26

聖の青春

大崎善生／著
KADOKAWA

将棋のプロ棋士になったが、若くして逝った村山聖の生涯を描く。5歳のとき難病の腎ネフローゼと診断され、学校にも通えず、病院のベッドで過ごす病室のなかで将棋と出会い、命をかけて名人を目指した。名人への挑戦権を持つ最高峰のA級まで到達したが、病が進行し、ガンのため29歳で、A級在位のまま亡くなった。

21

いま生きているという
冒険石川直樹／著
新曜社

冒険家石川直樹は、中学2年生で高知へ、高校時代にはインドへの一人旅を経験。その後、北極・南極踏破、最年少での七大陸最高峰登頂、熱気球太平洋横断などを成し遂げる。未知の地へ出かけることだけでなく、「心を揺さぶる何かに向かい合う」ということが冒険だと語りかける。

22

エンデュアランス号
大漂流エリザベス・コーディー・キメル／著
千葉茂樹／訳
あすなろ書房

シャクルトンをリーダーとする28人の男たちが、南極大陸を徒歩で横断しようと挑戦した。エンデュアランス号という船に乗って出航したが、船は南極にたどり着く前に、流氷に阻まれ、やがて沈没。しかし決してあきらめずに全員が生きて、帰国を果たした男たちの記録。

27

14歳の君へ
どう考えどう生きるか池田晶子／著
毎日新聞社

哲学者である著者が、中学生に向けて、友愛、個性、勉学、言葉、幸福など16のテーマごとに、読者に優しく語りかけ、問いかけるエッセイ集。「人に好かれようとするよりも、人を好きになるようにしよう。」「本当の自分なんてのは、最初からないんじゃないか。」「日々の迷いに手を差しのべる一冊。』

28

素数ゼミの謎

吉村仁／著
石森愛彦／絵
文藝春秋

アメリカに13年周期、17年周期で大量発生する「素数ゼミ」と呼ばれるセミがいる。しかもそれぞれのセミが発生する場所も決まっている。「なぜ同じ場所で発生するのか」、「なぜ13年と17年なのか」。セミの大量発生謎を、素数周期の最小公倍数と、進化論で解き明かす。

23

かならずお返事書くからね

ケイトリン・アリフィレンカ、
マーティン・ギャンダ／著
リズ・ウェルチ／編
大浦千鶴子／訳
PHP研究所

アメリカのごく普通の少女とジンバブエの少年が、偶然文通することに。少年の暮らしは貧しく、切手も買えないほどであったが、文通を続け、心を通わせていく。少年はアメリカ留学を目指し、少女と両親は少年のために奮闘。手紙が変えた人生を、大人になった二人が綴る実話。

24

「国語」から旅立って

温又柔／著
新曜社

2歳で日本に移り住み、「日本育ちの台湾人、台湾人なのに中国語がへたくそ」な日本語作家の温又柔。日本語、台湾語、中国語の間で、言葉や国籍の悩みに揺れながら、日本語で小説を書くに至るまでの体験を綴る。「国語」とは何かを考えるきっかけとなる1冊。

29

ダーウィンの「種の起源」
はじめての進化論サビーナ・ラデヴァ／作・絵
福岡伸一／訳
岩波書店

どうしてキリンの首は長いのだろう？ ヒトの先祖はサルなのだろうか？ ダーウィンは、生物にたくさんの種ができた理由を解き明かすため、多くの生き物を観察・研究し続けた。その結果、たどり着いた「種の起源」を、英国のイラストレーターが美しい絵とわかりやすい文章で著す。

30

正しいパンツのたたみ方
新しい家庭科勉強法南野忠晴／著
岩波書店

積極的に家事を分担している男性の「妻のパンツ（下着）を、妻が望むとおりたたみたくなくて悩んでいる」という相談から始まる。著者は、男性の家庭科教師。家庭科は、自分の暮らしを自分で整える力（生活力）を身に付ける教科。共に暮らす人みんなが、心地よく過ごすためにどうしたらいいかを考えるきっかけに。

31

地球家族

世界30か国のふつうの暮らし

マテリアルワールド・プロジェクト
代表 ピーター・メンツェル／著
近藤真理、杉山良男／翻訳
TOTO出版



地球に暮らす人々とはどんなものに囲まれ、どんな暮らしをしているのだろうか。戦火のサラエボから、ものにあふれた日本まで、世界30か国の平均的な中流家族に、家の中のもの(持ち物)すべてを家の前に出してもらい、家族と物をいっしょに撮影した写真集。1994年発行

32

何のために「学ぶ」のか

外山滋比古、前田英樹、今福龍太
ほか／著
桐光学園+ちくまプリマー新書
編集部／編
筑摩書房



脳科学者や生物学者、哲学者など各分野7人の専門家からの学びに関するメッセージ。筆者の経験から導き出した、知識よりも大切なもの、安易な答えに逃げない姿勢などが語られる。また読書案内として、それぞれが薦める3冊を紹介している。

37

アンネの日記

アンネ・フランク／著
深町眞理子／訳
文藝春秋



第二次世界大戦中、ナチスの目を避けるため、かくれ家にひそむことになったアンネ一家。アンネは、日記帳を心の友キティと呼び、日々の思いを日記に書きはじめる。ナチス占領下の異常な環境のなかで、13歳から15歳という思春期を過ごしたアンネの不安、恐れ、怒り、夢、悩みが瑞々しい感性で綴られている。

38

イシ ニつの世界に生きた
インディアン物語

シオドーラ・クロウバー／作
中野好夫、中村妙子／訳
岩波書店



北米先住民の一部族、ヤヒ族として誇り高く生きてきたイシの波乱の生涯を描いた物語。1911年、彼はヤヒ族最後の生存者として文明社会に迎えられた。ヤヒ族という先住民が守り続けた原始生活について、また彼らがなぜ滅んでいったかが語られる。

33

放課後の文章教室

小出綏／著
偕成社



若い読者たちから寄せられた「書くこと」についての質問に、作家である著者が回答していく形式のエッセイ。「どうしたらツイッターで魅力的な文章を書けるか」「感想文の書き方がわからない」といった質問に、いろいろな作家の文章を例に挙げながら、丁寧に答えている。

34

ぼくは恐竜探検家!

小林快次／著
講談社



周囲に流されてばかりいた著者が見つけた、本気でやりたいこと。勉強はできても研究はできなかった挫折。そして成長。もともと恐竜に興味がなかった恐竜学者が、将来の道に迷った時のヒントを、著者の実体験や恐竜研究、発掘現場の実態を通して教えてくれる。

39

海の島
(ステフィとネッリの物語)

アニカ・トール／著
菱木見子／訳
新書書房



ナチスの迫害を逃れ、スウェーデンの小さな島の寂しい漁師町で、別々の家に引き取られたユダヤ人姉妹ステフィとネッリ。預けられた家族との交流や、学校での日々が綴られた物語。言葉や宗教、生活習慣の違いに戸惑いながらも成長していく姉妹の姿を、丁寧に描いた四部作の第一巻。

40

王のしるし
上・下

ローズマリ・サトリフ／作
猪熊葉子／訳
岩波書店



舞台は紀元2世紀頃のスコットランド。主人公フィドルスは、容姿が馬賊の王マイダーに似ているというだけで、王位を追われたマイダーの復讐のために身代わりになる。王の役目を真剣に務め、戦い、王として振舞ううちに、フィドルスは真の王へと成長していく。復讐は成功するのか。

35

ヤモリの指から
不思議なテープ

石田秀輝／監修
松田素子、江口絵理／文
西澤真樹子／絵
アリス館



身の回りにある便利なものや技術は、実は、自然の不思議なしくみがヒントになっていた。接着剤も吸盤もなしでくっつくヤモリの指の裏、汚れも付かない超撥水のハスの葉などの研究が、製品開発に活かされている。16の例がイラストでわかりやすく紹介され、興味をひく。

36

雪は天からの手紙
中谷宇吉郎エッセイ集

池内了／編
岩波書店



雪氷学の研究者として著名な著者による、科学と科学者にまつわるエッセイ集。雪の結晶の研究や雷の研究の内容を、簡潔かつ丁寧に語る「雪を作る話」「雷獣」などのほか、＜立春に卵が立つ＞という報道の検証を通して、科学的な考え方について説く「立春の卵」など21編。

41

おやすみなさい
トムさん

ミシェル・マゴリアン／作
中村妙子／訳
評論社



戦争中のイギリスが舞台。ウィリーはロンドンから田舎町に疎開して、人嫌いの老人トムさんの元で暮らすことになる。母親に虐待されて育った少年と、つらい経験から人嫌いになった老人が出会い、町の人々との交流のなかで二人の心が動き出す。後半はドラマティックな展開に。

42

逆ソクラテス

伊坂幸太郎／著
集英社



大人になった主人公たちが、小学生の頃のエピソードを振り返り語る全5話の短編集。表題作の「逆ソクラテス」では、自分が正しいと信じ、物事を決めつけ、子どもたちにも押し付けようとする教師の先入観を、ひっくり返し、打ち破ろうとする小学生が描かれる。爽快な読後感が味わえる一冊。

43

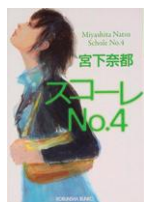
ジョコンダ夫人の肖像

E.L.カニグズバーグ／作
松永ふみ子／訳
岩波書店

美しい容姿だが嘘つきで気まぐれな悪童サライを、レオナルド・ダ・ヴィンチは、なぜ弟子にしたのか。その意味を理解していたのは、美しくはないが、聡明で孤独な公妃ベアトリチェだった。この3人の関係を通して、「モナリザ」のモデルは誰なのかというダヴィンチの謎に迫る物語。

44

スコールNo.4

宮下奈都／著
光文社

三人姉妹の長女麻子は、自分が不器用で、劣った存在だと感じていた。美人で聡明な妹と比べると、なお惨めになってしまう。そんな彼女が、中学、高校、大学、就職と、四つのスコール(学校)を通して自分の道を見つけていく。家族、恋愛、仕事に迷いながら進む彼女の人生を、丹念な描写で綴った物語。

49

時の旅人

アリソン・アトリー／作
松野正子／訳
岩波書店

ロンドンの少女ペネロピーは、病気療養でやってきた古い農場で、かつて荘園だった16世紀の時代に迷い込む。ここは、実際に起こった王位継承権にまつわる事件の舞台となった場所だった。現在の世界と行き来しながら、彼女はその大事件に巻き込まれていく。エリザベス朝の風俗や自然が緻密に活き活きと描かれる。

50

氷菓

米澤穂信／著
角川書店

何事にも無関心な高校生、折木奉太郎は、姉の命令で廃部寸前の古典部に入部する。そこで仲間たちに頼まれ、推理力を発揮し、日常におきる謎を解明していく。そのうち、古典部の『氷菓』という文集に隠された33年前の文化祭にまつわる学校の秘密を解いていくことに…。『古典部』シリーズ一作目。

45

そして誰もいなくなった

アガサ・クリスティー／著
青木久恵／訳
早川書房

イギリスの孤島に、互いに面識もない、職業や年齢もさまざまな10人の男女が呼び集められる。けれども招待主の姿は島にはない。夕食後、彼らの過去の犯罪の秘密を暴き立てる謎の声が聞こえてくる。各部屋には古い童謡の額が飾られ、その歌詞通りに…。アガサ・クリスティーの代表作。

46

旅の仲間上1
(指輪物語1)J.R.R. トールキン／著
瀬田貞二、田中明子／訳
評論社

人間、小人、妖精、トロールなどが共存する世界「中つ国」が舞台。冥王サウロンによって作られた指輪は、世界を滅ぼす力が秘められていた。その闇の指輪を破壊するために、ホビット族のフロドと仲間たちが繰り広げる冒険物語。争い、協力、裏切り、友情が描かれる。悪の根源冥王サウロンを完全に滅ぼすことができるのか。全3部作。

51

舟を編む

三浦しん／著
光文社

玄武書房に勤める馬締光也(まじめみつや)は、言葉への鋭い感性をかわれて、「辞書編集部」に引き抜かれる。予算縮小など次々と起こる問題に右往左往するが、国語辞典「大渡海」編纂のため、老学者やアルバイターの仲間達と共に完成を目指して突き進む。「大渡海」は編み上がるのか。

52

プリンセス・トヨトミ

万城目学／著
文藝春秋

大阪に400年の長きにわたって引き継がれてきた秘密。会計検査院の調査官3人、女子になりたい中学生・大輔と彼を守ってきた幼馴染の茶子(ちゃこ)たちは、その秘密の扉を開けてしまう…。5月末日の木曜日、大阪完全停止。その10日前から、国を揺るがす大陰謀の物語が始まる。

47

チア男子!!

朝井リョウ／著
集英社

坂東道場の息子でありながら柔道を辞めたことで、家族や姉に引け目を感じる晴希。同じ日に柔道部を辞めた幼馴染の一馬は男子だけのチアリーディングチームを作りたいと言い出す。それには一馬の家族に関わるある理由があった。チアに打ち込む男子大学生達の姿を描いた青春小説。

48

鉄のしぶきがはねる

まはら三桃／著
講談社

工業高校の電子機械科唯一の女子、三郷心(みさとしん)は、金属などで製品をつくる、ものづくり研究部の手伝いを頼まれる。旋盤作業をするうちに、鉄やものづくりの世界に引き込まれていく。「高校生ものづくりコンテスト」に旋盤で挑戦する女子高生の青春物語。

53

ミーナの行進

小川洋子／著
中央公論新社

主人公の朋子は、母親の仕事のため、中学1年生の1年間、伯母夫婦の家で生活することになる。その家には朋子より一つ年下で喘息の持病を持つ従妹のミーナがいた。ミーナとの友情、二人の淡い初恋、ペットとして飼っていたカバのことなどを、大人になった朋子が当時を振り返って語る。

54

雪の花

吉村昭／著
新潮社

長い間、死の病であった天然痘。幕末福井の町医者・笠原良策は、痘苗(ワクチン)接種が天然痘予防に効果があることを知る。人々の無理解に苦しめられながらも奔走し、ついに京都で痘苗を得たが、福井に持ち込むためには、雪深い栃ノ木峠を越えなければならなかった。

55

楽園のカンヴァス

原田マハ／著
新潮社

織江は大原美術館で監視員として勤務している。その織江のもとに、ルソーの展覧会を開くため、交渉の窓口になって欲しいという依頼が来た。指名したのは、ニューヨーク近代美術館のキュレーター、ティム・ブラウン。彼は17年前、ある絵の真贋を巡って織江と競い合った人物だった。

56

ロケットボーイズ
上・下ホーマー・ヒッカム・ジュニア／著
武者圭子／訳
草思社

炭鉱の町に住むサニーは、アメリカの衛星打ち上げ計画に携わるフォン・ブラウン博士に憧れ、仲間たちと自作ロケットの打ち上げに挑む。町の人々に支えられ、度重なる失敗を乗り越え、サニーたちは科学フェア全国大会へロケットを出展する。NASAで働く夢を叶えた著者の自伝的小説。

61

センス・オブ・ワンダー

レイチェル・カーソン／著
上遠恵子／訳
新潮社

アメリカの作家で、海洋生物学者の著者が、甥のロジャーと海辺や森のなかを探検し、星空や夜の海を眺めたかけがえない経験の中から生まれた作品。センス・オブ・ワンダーとは「神秘的や不思議さに目を見はる感性」のこと。

62

そして、ぼくは旅に出た。
はじまりの森ノースウッズ大竹英洋／著
あすなろ書房

写真家になることを決意した著者は、憧れの自然写真家ジム・ブランデンバークに会うために北米へと旅立つ。湖が点在するノースウッズまでのカヤックの旅、大自然の中での経験、温かく迎え入れてくれたジムとの交流など、写真家・大竹英洋の若き日の旅の記憶が丁寧に綴られる。

57

生き方の演習
若者たちへ塩野七生／著
朝日出版社

なぜ読書・教養は大事なのか、外国語教育のありかたはどうか。著者の孤独だった高校時代、イタリア游学、仕事、外国での結婚、子育てなどの経験をもとに、レールの敷かれていない人生を走り始めた若者たちに伝えたい、生き方のアドバイス。

58

うはウミウシのう
ジュノーケル偏愛旅行記宮田珠己／著
幻冬舎

「三大見たい生きもの」は、ウミウシ、イザリウオ、エイ。東南アジアや日本の海でジュノーケリングをして、出あった生きもののことを、ユーモアたっぷりに語った旅エッセイ。変なカタチの生きものをこよなく愛する著者の手書きの図解イラストも嬉しい。

63

ソロモンの指環
動物行動学入門コンラート・ローレンツ／著
日高敏隆／訳
早川書房

動物好きの人なら、動物の言葉がわかるソロモン王の指環は、ぜひ手に入れたい宝物だろう。だが著者は、魔法の指環に頼らずとも動物の行動を観察し、その意思を考察することで、動物を理解できると述べている。鳥のひなの刷り込み理論で、ノーベル賞を受賞した著者の観察と思考の過程が楽しめる。

64

時を刻む湖
7万枚の地層に挑んだ科学者たち中川毅／著
岩波書店

福井県若狭町にある三方五湖の一つ、水月湖。この湖の堆積物を「世界の標準時計」にしようと、日欧チームが挑戦する。季節ごとの堆積物が作る縞模様が年縞。その年縞7万年分をひたすら数え、測り、組み合わせ、5万年分の年代測定をより正確にすることに成功した科学者たちの軌跡。

59

風をつかまえた少年

14歳だったぼくはたったひとりで風力発電をつつた

ウィリアム・カムクワンバ、
ブライアン・ミラー／著
田口俊樹／訳
文藝春秋

アフリカのマラウィは干ばつにより多数の餓死者がでていた。著者も飢餓の中、学費が払えず中学校を中退する。しかし彼は、学校の小さな図書館に通い、出会った本をもとに、手に入る廃材などを工夫して風車を作ろうと考えた。そしてそれは、彼の運命を開ききっかけになる。

60

紙つなげ!彼らが
本の紙を造っている
再生・日本製紙石巻工場佐々涼子／著
早川書房

東日本大震災による津波で、日本製紙石巻工場は完全に機能停止した。工場長は半年で復興させると宣言。電気もガスも水道も復旧していないなかで、従業員たちの闘いが始まる。工場、地元石巻、本を待つ読者のために、絶望から立ち上がり復興するまでを徹底取材したノンフィクション。

65

友だち幻想

人と人の<つながり>を考える

宮野仁／著
筑摩書房

「友達が大切、でも友達との関係を重苦しく感じてしまう」。上手に人とのつながりを築けるようになるためにはどうすればよいのか。身近な人や、友だちとの関係で悩んでいる人に、人と人とのつながりについて見直すきっかけを与えてくれる本。

66

謎のアジア納豆

そして帰ってきた<日本納豆>

高野秀行／著
新潮社

著者は、アジアの大陸部で作られている納豆を「アジア納豆」と呼ぶ。アジア各地の納豆を探し、食べ、作り、現地の人々と交流しながら、納豆の起源に迫っていく。味噌納豆、せんべい納豆、竹納豆など形も味も様々な、未知のアジア納豆を紹介する。同著者の『幻のアフリカ納豆を追え!』もある。

67

走ることに 関する僕

村上春樹／著
文藝春秋



小説家である著者が「走ること」を通して、作家として、ランナーとしてどのように考え、生きてきたかを語るエッセイ。年に1回はフル・マラソンを走り、世界各地でのレースにも出場。コースの様子や風景、走っているときの心情が細やかに綴られる。

69

ぼくはイエローで ホワイトで、ちょっとブルー

ブレイディみかこ／著
新潮社



イギリスの都市ブライトンで暮らす日本人の母親とイギリス人の父親を持つ息子が選んだ中学校は「元・底辺中学校」。人種・貧富の差など様々な出自を持つ子ども達が集まる学校で生活することで、友人や地域など日常的な関わりの中で考え、悩み、成長していく少年の1年半が、母親の目を通して描かれる。

71

モリー先生 との火曜日

ミッチ・アルボム／著
別宮貞徳／訳
日本放送出版協会



16年ぶりに再会した大学時代の恩師モリー先生は、難病ALSに侵されていて、余命わずかなのに幸せそうだった。人生で何が大切かを教えてくれる、死の床での最後の授業。「いかに死ぬかを学ばば、いかに生きるかも学べる。」本書はその授業の記録。

68

深読み！絵本 『せいめいのれきし』

真鍋真／著
岩波書店



半世紀以上、読み継がれてきたバージニア・リー・パートンの絵本『せいめいのれきし』の改訂版を監修した著者が、絵本に盛り込めなかった知識や最新の研究成果を解説。絵本の流れにあわせて、地球誕生から現代までを、絵本の中の絵や写真を多用し紹介。絵本『せいめいのれきし』と一緒に楽しみたい。

70

ホワット・イフ？ 野球のボールを光速で投げたらどうなるか

ランドール・マンロー／著
吉田三知世／訳
早川書房



「光速の90%の剛速球をバッターに投げたらどうなる？」「太陽の光が突然消えたら、どうなる？」「NASAでロボット開発に従事していた著者がどんな突拍子もない質問にも物理と数学と人脈を駆使して答えを導き出す。知的好奇心とユーモアに溢れた科学読本。

72

山中伸弥先生に、人生と iPS細胞について聞いてみた

山中伸弥／著
緑慎也／聞き手
講談社



ノーベル医学・生理学賞を受賞した山中先生が語る「iPS細胞ができるまで」と「iPS細胞にできること」。「ジャマナカ」と馬鹿にされ、臨床医をあきらめたところから始まった研究が、iPS細胞の発見につながった。これまで歩んできた道のりを先生自身の言葉で分かりやすく伝えている。

索引

あ行

NO.

穴	1
アンネの日記	37
生き方の演習 若者たちへ	57
イシ 二つの世界に生きたインディアン物語	38
いま生きているという冒険	21
うそつきの天才	2
うはウミウシのウ シュノーケル偏愛旅行記	58
海の島(ステフィとネリ)の物語	39
運命の騎士	3
エンデュランス号大漂流	22
王のしるし 上・下	40
王への手紙 上・下	4
おやすみなさいトムさん	41

か行

影との戦い(グッド戦記1)	5
風をつかまえた少年 14歳だったぼくはたったひとりで風力発電をつくった	59
かならずお返事書くからね	23
紙つなげ!彼らが本の紙を作っている 再生・日本製紙石巻工場	60
逆ソクラテス	42
孔雀のバイ	6
クラブアート	7
獣の奏者! 間蛇編	8
「国語」から旅立って	24
九つの銅貨	9
ゴリラは語る	25

さ行

聖の青春	26
算法少女	10
シャーロック・ホームズ まだらのひも	11
14歳の君へ どう考えどう生きるか	27
ジョコンダ夫人の肖像	43
スコールNo.4	44
センス・オブ・ワンダー	61
そして誰もいなくなった	45
そして、パトンは渡された	12
そして、ぼくは旅に出た。 はじまりの森ノースウッズ	62
素数ゼミの謎	28
ソロモンの指環 動物行動学入門	63

た行

DIVE!! 上・下	13
ダーウィンの「種の起源」 はじめての進化論	29
宝島	14
正しいパンツのたたみ方 新しい家庭科勉強法	30
種をまく人	15
旅の仲間上1(指輪物語1)	46
魂をはこぶ船 幽霊の13の話	16
チア男子!!	47
地球家族 世界30か国のふつうの暮らし	31
鉄のしぶきがはねる	48
時の旅人	49
時を刻む湖 7万枚の地層に挑んだ科学者たち	64
飛ぶ教室	17
友だち幻想 人と人のくつなかり>を考える	65

な行

謎のアジア納豆 そして帰ってきた<日本納豆>	66
何のために「学ぶ」のか	32
西の魔女が死んだ	18

は行

走ることに関する僕	67
水菓	50
深読み!絵本『せいめいのれきし』	68
舟を編む	51
ブリット-マリはたまたま幸せ	19
プリンセス・トヨトミ	52
放課後の文章教室	33
ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー	69
ぼくは恐竜探検家!	34
ホワット・イフ? 野球のボールを光速で投げたらどうなるか	70

ま行

ミーナの行進	53
めざめれば魔女	20
モリー先生との火曜日	71

や行

山中伸弥先生に、人生とiPS細胞について聞いてみた	72
ヤモリの指から不思議なテープ	35
雪の花	54
雪は天からの手紙 中谷吉郎エッセイ集	36

ら行

楽園のカンヴァス	55
ロケットボーイズ 上・下	56